

食の検定・食農1級検定試験および公式テキストブックについて

一般社団法人 食の検定協会では「食の検定・食農級」の最上級試験となる「食農1級検定試験」を2011年より実施いたします。食の検定の審議機関である評議委員会にて、食農1級検定試験の構成について正式に決定いたしましたので、その概要について、ご案内させていただきます。

一般社団法人 食の検定協会

食の検定・食農級とは

食の検定協会（代表理事：内田啓祐）は、食農に携わる民間の企業有志、有識者とともに2006年に組織した団体であり、食農理解、食育普及を目的とした教育プログラム「食農級」を開発し、検定試験の実施を2007年より行っています。食の検定がテーマとする食は「日本の食」であり「生産から消費までの横断的な食」です。「食農級」は、日本人の食の基盤を支える「農」に着目し、基礎級の「食農3級」、食農3級合格者を対象とした「食農2級」、食農2級合格者を対象とした食農1級と、段階的にステップアップしていくプログラム構成です。

食農級は、さまざまな年代、職種の方に受験いただいています。とくに食農3級受験者は、小学生から80歳代までと幅広く、食や農について学ぶ高校生・大学生、食育の最前線を担う主婦、食品の製造・流通・販売・サービスの担い手、生産者・生産団体員、教育関係者、行政の方など、多彩です。

【試験概要と実績】

●食の検定・食農3級検定試験

[取得者の人物像] 居住地域の食に目を向けつつ、望ましい食生活を送る上で必要な、農作物の生産から消費までの基礎的な知識を持つ人。

[試験構成] 四者択一マークシート方式 100問（一般問題90問、地方問題10問—受験地区別） 90分
合格点 80点以上

[出題範囲] 公式テキストブック（3級専用）、日本の地域食材

[受験実績] 2007～2010年延べ受験者数 18,574名 合格者数 11,853名

●食の検定・食農2級検定試験

[取得者の人物像] 日本の食料・農業事情に関する知識を持ち、日本の農産物、地方色豊かな地域農産物を把握している人。

[試験構成] 四者択一マークシート方式 100問（全国共通） 90分 合格点 70点以上

[出題範囲] 公式テキストブック（2級専用）、日本の地域食材

[試験実施] 2008～2010年延べ受験者数 3,281名 合格者数 1,087名

食の検定・食農1級検定試験の構成と概要

食の検定協会は、食育基本法に掲げられている“国民運動としての食育”に共感し、その実現に寄与することを目的の1つに設立いたしました。食農級の最終目標は、それぞれの家庭、地域、社会の中で、リーダーシップをもって国民運動を推進していく人の輩出であるとし、食農1級取得者の人物像は「日本の食・農に関する見識を持つ人。知識を実践に役立てられる人、他者に提供できる人。」として描いて参りました。

食の検定・食農3級、2級は、農産物を消費する生活者としての立場から、食と農や食育について学ぶことを目的に開発したプログラムです。食農2級を取得するまでの間に、現代の日本の食料・農業事情の概要や食育基本法、食の機能や食選択、食文化など健康的で豊かな食生活を送る上で必要な基本事項をマスターしていただけてきました。また、日本国内には多種多様な農産物、地域固有の農産物が存在することや、安全かつ新鮮な農産物を届けるための取り組み等についても知識を蓄えてきていただけてきました。

食の検定協会が望む食農1級取得者の人物像の条件を満たすには、食農2級までの内容に加えて次の事項が必要であると考えます。

1. 食や農に関わる広い視野
2. 実践力
3. 発信力

食農1級取得者の人物像に近づくための事項として、「生産そのものに関する知識の獲得」「食の知識の活用」「食の知識の伝達」の3つを柱に掲げた書籍「食の検定・食農1級公式テキストブック」を開発いたしました。

もとより、先に挙げた1～3は、受験勉強ではなく、社会生活の中で培われていく事柄です。食農1級検定試験は、「食農1級公式テキストブック」を出題範囲とするとともに、自ら学び自ら考え自ら発信していく力を問い、個々の人生経験や得意分野も生かしていただける試験方式といたします。具体的には、食農1級検定試験は「当日試験」と「提出課題」で構成し、当日試験は「筆記試験」と「小論文」になります。

食の検定は、多彩な職種・年代の方に受験いただいております。各人の立場で“食”や“農”を発信し、食育を力強く推進していただけることを願っています。食や農は、いま多くの問題が提起されています。TPPの参加の是非等、国民全体としての議論が望まれる課題が示されています。食の検定は、こうした種々の課題の当事者として、積極的に参加していく発信者を生み出す活動であると信じています。

■食の検定・食農1級検定試験の概要

[取得者の人物像]日本の食・農に関する見識を持つ人。知識を実践に役立てられる人、他者に提供できる人。

[試験概要]当日試験と提出物

当日試験・・・2部構成

<前半>

筆記試験 マークシート方式 65問 70分【65点満点】

出題：「食の検定・食農1級公式テキストブック」および

「食と農にかかわる時事※」※法律・制度、政策・施策、最新研究等

<後半>

小論文 60分【20点満点で4段階評価】

小論文のテーマは、試験回ごとに異なり、テーマおよび論じるにあたっての規定は試験当日の配布資料にて発表します。出題は、食の検定・食農級各級取得（1級含む）において学んできた食と農に関する事柄が対象となります。

提出物・・・選択制

下記4つの課題から1つを選択しレポートを作成の上、提出

【15点満点で4段階評価】

課題①地域食材の発掘

課題②献立立案

課題③食育活動の報告と自己評価

課題④「各回限定課題」※食農1級検定試験実施回ごとに限定的に設ける課題です。

各課題とも、食の検定協会が配布する書式に従い作成していただきます。課題①～③については固定、課題④については社会問題など時々ふさわしいと考えるテーマを掲げます。

試験の具体的な内容、提出課題の書式については2月下旬以降、順次、食の検定協会ホームページに掲載します。

[合格点] 70点以上

■食の検定・食農1級公式テキストブックについて

日本の食と農に関する学びを深め、心身ともに健康的な食生活を育み、知識を他者に伝える技術の涵養を目的に構成。「農業」「食事」「食育」をテーマにした全3章。

[構成] 全3章

第1章「農」食のおおもと「農」を学ぶ。

監修：高橋久光・友田清彦・
板垣啓四郎・夏秋啓子（東京農業大学）

- 第1節 近現代日本農業の歴史
- 第2節 日本の「農業」とこれから
- 第3節 世界の農業構造

第2章「食」家庭の食事を豊かにする。

監修：岩間範子（女子栄養大学短期大学部）

- 第1節 栄養と食事、その実践
- 第2節 日本の食文化に親しむ

第3章「育」育てていくこと。学んでいくこと。

監修：金子佳代子（横浜国立大学）

- 第1節 地域で食を育もう
- 第2節 よりよい学びをめざして
- 第3節 食育の知識を広げる

[仕様] A5サイズ、256ページ、本体1色

[発行] 一般社団法人 食の検定協会

[発売] 社団法人 農山漁村文化協会

[価格] 本体3000円＋税

[発売日] 2011年1月27日 食の検定協会先行販売 書店販売：2011年2月上旬



表紙



表紙：帯付

■食の検定・食農1級第1回検定試験

2011年6月開催 [同日開催] 食の検定・食農3級第9回検定試験

※2011年より出題範囲が「食の検定・食農3級公式テキストブック 2版」になります。

以上